



「一から全て」、「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、畑74aとハウス1棟で主にハーブ類、リーフレタス、新潟在来種の野菜を、農薬・肥料・除草剤を使わず栽培し、加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で行う。農産物を加工することで長期保存を可能とし、付加価値をつけ収入アップを図るとともに、障害者の活躍の場を増やし、'やり甲斐'を育てていく。

基本情報

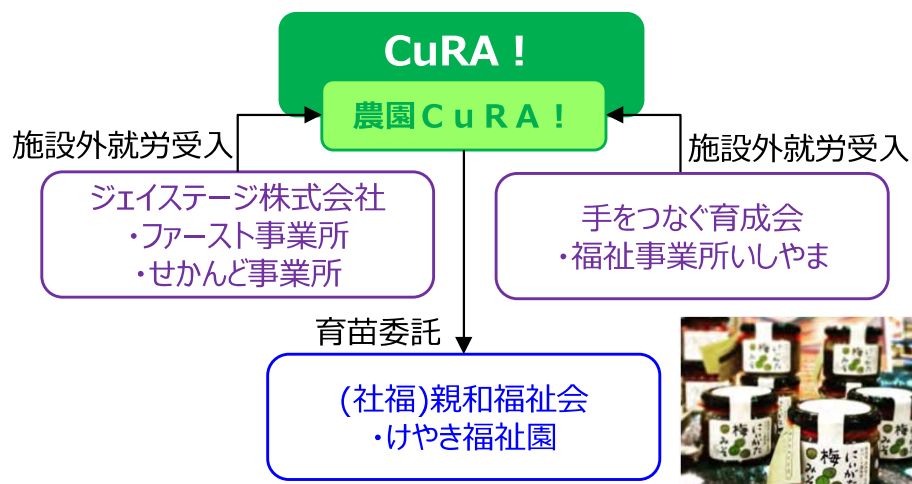
- 所在地：新潟県新潟市
- 団体名：CuRA！（ちゅら）
農園CuRA!
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：
ハーブ、ハーブ加工品、レモン、ジャム、
ドレッシング、在来種野菜、味噌加工品

取組の概要

- 農園CuRA!は、当園スタッフと健常者1名、パート雇用2名、施設外就労受入を2箇所の事業所から行い、育苗作業を1事業所に委託し、経営している。
- 除草や耕耘等の圃場整備から播種、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程に障害者が関わり、責任とやり甲斐を感じることで、生産量・品質向上に繋がっている。
- 新潟市内の特別支援学校の生徒の受入を2018年から毎年実施し、施設外就労の利用者とチームを組み、切磋琢磨しながら協働作業を行っている。
- 周辺農家が生産している果物や野菜と、ハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャム等の加工品を製造し、県外でも販売している。
- 2019年には、輸出を視野に入れ、ロシア・フランス・シンガポールへサンプル輸出を実施。
- 2020年から複数の福祉事業所とともに、赤しその栽培から加工を施設の設備や技術に合わせ作業担し、商品製造をし、一般販売が決定した。

項目	単位	取組当初	H28年	H29年	H30年	R元年	R 2年
障害者数	人	3		3	6	10	17
農地面積	a	54		54	61	61	72
障害者月平均賃金	千円			12,000	24,000	139,440	338,640

体制図



取組の成果

- 障害者の得意を伸ばすことで新たにできる作業が増え、生産性が3倍以上アップし、販路拡大と売上向上に繋がった。
(2019年：430万円→2020年：834万円)
- 障害者就労者数も、取組当初より増加している。
(2017年：3名→2020年：17名)
- OEM、PB商品の受託が可能となった。



所在地 ▶ 新潟県新潟市江南区嘉瀬3336-4
 連絡先 ▶ TEL:090-8724-6050 FAX：－
 E-mail:niigata_herb_cura@icloud.com
 ウェブサイト ▶ <https://www.facebook.com/niigata.herb.cura>



【取組のプロセス】

幼少期

荒廃農地の増加と地域住民の高齢化という現状

きっかけ

両親が経営する学習塾に通う生徒の7割～8割が障害児であったため、周囲に障害者がいることは当たり前であった。次第に、彼等の働く環境に疑問を抱き、「活躍の場をつくりたい!」という思いにつながった。

2017年～

大量のハーブが欲しいという問い合わせが度々あった

新規就農・農福連携スタート

- 販路が確立している作物中心の農業であれば工賃が払えると考え、就農当初から施設外就労を受け入れた。
- 精神疾患のある人が香りで癒やされながら‘やり甲斐’を感じられる機会を設けたいと考え、54aのハーブ園を開始した。(施設外就労受入と援農ボランティアの受入)



2018年～

新潟市アグリサポートセンターと江南区役所のマッチングを利用。

加工製造をスタート

- 県外にもファンを増やしていくことを目標に、フレッシュな商品よりも高単価で日持ちする加工品を一次生産と並行して製造することにした。
- 作業が少ない梅雨時期や冬場に加工品を製造することで急な天候の変化などで作業がなくなるリスクを減らした。本人が使いやすい作業ツール・工程の工夫も常に行っている。



2019年～

稲作と果樹栽培は盛んだが、色味がある花などが地域にはない・・・

輸出を視野に入れ、海外の商談会に参加 ロシア、フランス、シンガポール、ベトナムへサンプル輸出を開始

- 新潟県内や日本国内だけでは販路が増えたとしても頭打ちになる。世界に出荷していくことができれば、今関わっている福祉事業所だけではなく、ほかの施設なども仕事が少ない時に製造して作りだめていくことで、常に仕事する環境が用意できると考えた。



2020年～

新潟市12次産業化推進計画

エディブルフラワーの生産を開始

- 高齢であっても、言葉など表現が不自由でも、「きれい」「いい香り」など感動を共有できる景色を作り出し、それを地域の高齢者やUターン組とのコミュニケーションツールの一つとして利用していきながら共生を目指している。

今後の展望

・グローバル展開・香りと彩りで明るい世界をつくる

- 輸出を本格化し、農福連携で作った商品が海を渡ることができるようにする。
- ハーブや花を生産する圃場面積を1haに拡大。五感で感じながら働くことができ、近隣住民ともコミュニケーションが図りやすい、居心地のよい職場・居住環境を作っていく。

